

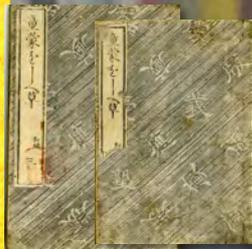


「文学論」装幀デザイン

漱石・鷗外・子規・諭吉
文豪たちが、まだ、若者であった時代へ



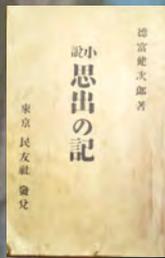
「坊ちゃん」奥付デザイン(部分)



「童蒙をしへ草」福沢諭吉



「文学論」夏目漱石



「思出の記」徳富蘆花



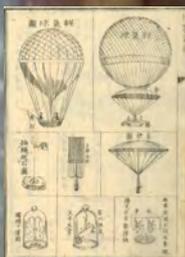
「吟遊詩人」森林太郎(鷗外)



「坊ちゃん」夏目漱石



「桜の御所」村井玄齋



「博物新編」合信



「大農」佐野天聲

夏目漱石 没後百年

明治の本棚

藤岡家所蔵・明治時代の本

平成28年10月1日(土) ~ 12月22日(木)

郵便番号 637-0016 奈良県五條市近内町 526 番地 ☎とファックス 0747 (22) 4013
登録有形文化財「藤岡家住宅」・うちの館(やかた)
月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館 9時~16時 info@uchinono-yakata.com
大人(高校生以上)300円・小中学生200円 20名様以上2割引

夏目漱石没後百年「明治の本棚」展

～藤岡家所蔵・明治時代の本～

期間・平成 28 年 10 月 1 日（土）～12 月 22 日（木）

場所・登録有形文化財「藤岡家住宅」母屋・展示室 1F



明治 39 年 8 月 1 日付「萬朝報」新聞広告より夏目漱石「文学談」（早稲田文学）に掲載の広告➡



展示資料

夏目漱石（慶応 3 年・1867 年～大正 5 年・1916 年）

日刊新聞「萬朝報」（明治 39 年 8 月 1 日号）には「早稲田文学・8 月の巻」に漱石の「文学談」掲載の広告があります。漱石は東京帝国大学在学中、東京専門学校（後の早稲田大学）の英語科・文学科でおおよそ 2 年ほど、教鞭をとっていたことがあります。漱石は後に同校で教鞭をとった小川未明や島村抱月、卒業生の正宗白鳥（『早稲田文学』主宰者）らと共に同誌の執筆陣に加わっていたようです。

「坊ちゃん」（15.5 ㌘×9.8 ㌘×1.2 ㌘）は、明治 39 年（1906）4 月 1 日発行「ホトトギス」に掲載された小説が明治 40 年 1 月に単行本として発行されたものです。藤岡家所蔵本は大正 6 年 5 月 25 日発行の第 20 版で、正価 65 銭。著者は夏目金之助となっています。その年 12 月 9 日、漱石は胃潰瘍のため 49 歳で他界しました。

「文学論」（15 ㌘×8.8 ㌘×3.5 ㌘）漱石の没後大正 6 年 6 月 3 日に発行された評論。その「序」には、明治 39 年 11 月 本名の夏目金之助の名で明治 33 年のイギリス留学について記されています。留学当時 33 歳であった漱石が「時に余は洋行の希望を抱かず、且つ他に余よりも適当な人あるべきを信じたれば」と考えていたことなど、洗練されたユーモアのある語り口は、近代第一とも言われる漱石の知性を感じさせます。藤岡家所蔵本は大正 8 年 7 月 1 日発行（第 6 版）定価 2 円 20 銭。見開きに一重の山吹に似た黄色い花が描かれています。

森鷗外（文久 2 年・1862 年～大正 11 年・1922 年）の資料について

森林太郎著『即興詩人』上・下巻（23 ㌘×16.3 ㌘×1.7 ㌘）。アンデルセンの最初の長編小説のドイツ語版を森鷗外（林太郎）が明治 25 年～明治 34 年、30 歳からおおよそ 9 年間かけて翻訳。明治 35 年に出版され、近代日本文学に大きな影響を与えました。藤岡家所蔵本は大正元年 12 月 5 日発行（第 10 版）実価金 60 銭（1 冊分）。当時藤岡長和は東京帝国大学の学生で、鷗外の後輩にあたりました。「明星」を通じて鷗外と交流のあった時代の 1 冊。「例言」には「予の母の年老い目力衰へ」のため、「此書に字形の大なるを選びし」とあります。

福沢諭吉（天保 5 年・1835 年～明治 34 年・1901 年）の資料について

藤岡家所蔵 福澤諭吉譯「童蒙をしへ草初編」明治 5 年（1872）壬申 季夏 尚古堂発兌は、万延元年（1860 年）咸臨丸に乗ってアメリカに渡った福澤諭吉がウェブスターの辞書を手に入れイギリスのチェンバーズ社刊“The Moral Class-book”を翻訳したものです。『学問のすゝめ』初編が出た年に発売されたものです。イソップなど子ども向けの道徳を福澤流に語り聞かせるような筆致で書かれています。

徳富猪一郎（文久 3 年・1863 年～昭和 32 年・1957 年）著「第四版 将来之日本」（明治 29 年 9 月 東京経済雑誌社発兌）は、後に徳富蘇峰となる筆者が 33 歳のときに書きました。「国民新聞」を主宰し平民主義を主張する若いジャーナリストが社会に大きく影響を与えた著作です。「思出の記」は、徳富蘇峰の弟、徳富健次郎・後の徳富蘆花（明治元年・1868 年～昭和 2 年・1927 年）が明治 34 年、32 歳で著しました。民権運動の中生きる若者の理想像が描かれています。

そのほか、明治時代の地理の教科書など、明治期の日本の近代化を牽引した貴重な資料を展示します。